

佐保小学校と鼓阪小学校の統合再編に関する説明会 質疑応答要旨（令和7年6月8日）

◇質疑応答内容

	統合再編について	回答
1	奈良市子どもにやさしいまちづくり条例の条文を鑑みても、子どもが 1 請願として出した意見について、当事者皆で共有して話し合う機会を 設ける必要があると思うが、市長と学校長に伺う。	奈良市子どもにやさしいまちづくり条例は子どもも含め、1人の市民として大人と一緒に町の 未来を作っていこうという趣旨になっており、その中でも子どもたちの意見表明権は大事に しなければならない。 一方で、物事的意思決定をしていく際は、子どもか大人かに関係なく、意見の多様性を踏ま えた上で最終的な方向性を見つけていくことが大切である。少子化を前提条件として受け止 めた上で教育の観点から、多様な子ども同士が出会える場を用意することが重要であると思 えている。統合再編がマルカバツかではなく、子どもの具体的な不安や希望とはしっかり向 き合い、大きい声にも小さい声にも丁寧に耳を傾け、反映できるよう考えていくことが大切 である。（市長） 子ども同士が意見を理解し合って認め合うことはとても大切であり、その中で、学級や学校 で決まったことを皆で守っていく教育活動を毎日重ねている。統合のことについては、令和7 年2月に各学年で、子どもの発達状況に合わせて話し合いを行った。ポジティブな声もネガ ティブな声もあり、学校として子どもたちの意見を受け止めて不安解消に努めている。 また、両校の児童の交流にも取り組んでおり、交流を進める中で子どもが希望する事項があ れば、教育委員会にも伝えて反映できるよう考えている。（校長）
2	統合再編自体は決まっているので他の意見を聞くというのであれば、 2 請願の趣旨を理解していないのではないか。	市長と議会と両方が市民の代表であるという仕組みの中で、色々な要素を勘案した上で、こ の事業については進めていく事が決定している。 そのままの学校に通いたいと思う子どもの気持ちと、クラス替えのできる環境に魅力を感じ る子どもの気持ちには優劣がなく、色々な考え方があある。数年待ったからといって急に子ど もの数が大幅に増加することはなく、与えられた条件の中でより良い環境を作るためにはど うしたらよいか、大人が責任をもって結論を出していくことが必要である。既にかかなりの年 数をかけて今に至っているため、現実的な意思決定をしていくことが重要である。 教育環境を整えていかなければならないという意味でこの事業を進めてきている。地域との 密接な連携やきめ細やかな指導など、小規模校にしかないメリットもあるが、クラス替えが できないことや人間関係の固定化などの課題が多く指摘され、学校規模の適正化についての 国の基準もある。教育機会の確保の意味でも、適正な規模で教育を受けるという子どもたち の権利を守っていかなければならない。今後どうするかをしっかりと議論し、より子どもたち が安心して安全に通える学校づくりをしていかなければならないと考えている。
3	市長は統合再編への賛成・反対を決められないとのことだが、賛成・ 3 反対が決められないのに強行で統合再編を進めるべきではないし、自 分はずっと反対している。子どもたちの未来のために統合再編を進め ていかなければならないと言うが、子どもたちの未来とこの地域のため には鼓阪小学校がある方がよいと思う。このまま廃校になったらこ の地域は崩壊してしまう。少子化を思うのなら、市長は鼓阪小学校を 残して対策を考えていく方法を今からでも考えてほしい。	統合再編への賛成・反対を決められないという意味ではなく、0か100かの議論ではないとい うことである。反対の声が多いから統合再編をしない、賛成の声があるからするというこ とではなく、今と将来の子どもたちの教育環境にとって何が望ましいのかを一番に優先すべき である。子どものためという目的は皆同じだと思うが、その方法論としては、いろいろな考 えの違いが出てくる。小規模校を望む声も適正規模校を望む声も間違いではなく、どこかの タイミングで意思決定をしなければ問題の先延ばしになってしまう。子どもにとってより良 い環境については教育委員会が中心となってベターな選択肢を考えてここのまで進めているも のである。
4	7月20日の選挙で新市長が決まるまでは、設計変更ができるよう工事 4 は中断するべきだと思うが、立候補するのか。新校舎建設は長期的な 計画であるため、この計画を推進している一番の責任者である市長 が、次の4年間にも市政の責任を持つ意志を表明した上で現場の作業 に取り掛かるのが正しいやり方だと思う。	学校規模適正化の取組は、既に議会も含めて意思決定は終わっており、説明会も行ってい る。工事を止めるべきだという意見は承るが、これを全て白紙に戻すことは市民の大きな負 担や混乱を招くものであり、賠償金もかなり国の補助金も得られなくなる。それは子どもに は関係のない話であり、それを大人が政争の具にして中途半端に頓挫させるのは、教育上も 望ましくない。子どもにとって1年間は重いものであり、いたずらに意思決定を先延ばしに したり、選挙がある度に施策を中断したりするようでは、継続的で安定した市政運営はでき ない。次の4年間で誰が市政を担うかに関わらず、行政として議会も含めて意思決定をして いることについては着実に実行していかなければ、行政に対する信頼も失われてしまうため、 現実的な意思決定をしていくことが必要である。
5	統合再編は市長が決めていることとして進んでいるからもう戻れない 5 話として進んでいるが、何故進めるのか。	学校規模適正化を進めていくのは教育委員会であり、教育的な観点に立つて、子どもたちの 教育環境はどんな環境が望ましいのか、どんなカリキュラムがよいのかを考えるのは教育委 員会の専権事項である。予算の決定は、市長部局が事務を行うが、教育委員会の教育的観点 の考えに反して市長が強い権限で意思を通すことは、教育の独立性が失われることになり、 教育の公平性・継続性が失われるため市長部局と教育委員会の仕組みは別々になっている。 この統合再編は子どもたちの教育環境の観点から進めている。

	通学について	
6	スクールバスを運行するから通学の問題がないということではない。 6 家を出るのが少し遅れたり、バスの遅れで一度帰宅したりした子ども が乗れない可能性がある。その場合どんな対応をしてくれるのか。	現時点では、3ルートで運行する計画案であるが、いろいろな事情・状況を鑑み、保護者や地 域の方々から意見を聞いて一緒に検討し、運行案を決定したい。 市内でも既にスクールバスの運行実績はあるが、小さい子どもでは朝の行き渋りや、バスが 来なかったから家に帰るということもあるかと思う。全国のスクールバス運行事例で参考に なるものがあれば積極的に採用し、子どもと保護者にとって、使い勝手が良いものになるよ う、運行ルールを詰めていきたい。
7	下校時のバスについて、バンビーホームに通う子どもとそうでない子 7 どもは帰る時間帯が違うが、送迎はどうなるのか。	バンビーホームで5時まで預かり、その後は基本的にお迎えとなるため、低学年の児童用の便 と高学年の児童用の便の2便を予定している。平日のバンビーホーム利用児童の送迎につい ては、今後保護者や地域の皆様のご意見を伺いながら前向きに検討していきたい。
8	通学路の安全対策案を決定したとあるが、危険箇所について意見して 8 も動いてもらえていない部分もあると聞いている。歩道がない場所 や、歩道があっても足場の悪い道もあり、そのような場所についての 対応をきちんとしてから進めるべきではないか。	昨年度点検した対策案に沿って今年度から対策を講じていき、状況については、学校やホーム ページを通じて都度お知らせする。 また、佐保小学校の建設に当たって転害門から佐保小学校に至る道路を一通り歩いたが、歩 道がなくグリーンベルトだけが引かれている場所があることは確認している。通学路安全点 検プログラムが完了した現場と、今懸念されている現場についても、聞き取って現場を確認 したい。 現実的には、国道などは市で触れられない部分もあるが、通学路でなくても子どもの安全に 関して不安のある部分については、市から県や国に要望することも含めてできる限り対応し ていきたいと思うため、情報提供してほしい。
9	統合再編した場合、佐保小学校ではなく椿井小学校や飛鳥小学校に行 9 くことはできないのか。	以前からそのようなご意見はあり、近隣施設との兼ね合いを考える必要がある。

	跡地活用について	回答
10	市が財政難だから鼓阪小学校の跡地を活用して補おうという前向きな計画があってこの事業を進めているのか。もしそうであれば、市民に向けてもそのような説明をしてほしい。	統合再編の実施により、財政的に大きいメリットがあるわけではない。あくまで子どもたちにとってどんな教育環境・空間がよいかという議論で実施するものである。跡地について、講堂は地域のシンボルとしても、避難所としても残してほしいという意見を聞いており、活用していくが、講堂以外については現段階では何も決まっていない。
11	跡地が何になるかも決まっていないのに統合再編を進めることがそもそもおかしい。	跡地活用の予定があるという理由で、廃校にすることとはあってはならない。結果としての跡地活用は、地域住民の意見も聞きながら決めていくべきであるが、あくまでも前提としては、今後子どもの数が大幅に増えることが想定しにくい中、未来の子どもたちの教育環境がどうあるべきかを議論をし、意思決定していくことが重要である。
12	鼓阪小学校の跡地がクリーンセンター建設の候補地になっているという噂があるが。	鼓阪小学校の跡地は東大寺の旧境内地であり、家やビルの建設等は制限されるため、仕組み上開発はできず、市としてもそのような計画はない。

	その他	回答
13	今日の説明会は、PTAに事前に日時を打診はなかったし、放課後子ども教室とかぶっている。校長と教育委員会が日時を決めたと聞いているが、具体的にどのように決めたのか、教育委員会と学校長に伺う。	市議会で統合再編に関する予算が可決されたことを受け、鼓阪と佐保両方で説明会実施に向け、両校のPTA会長に4月に入ってすぐに連絡していた。しかし、鼓阪地域については、まずPTAが主催する会議に参加してほしいという打診があったため、その日程が知らされるのを待っていたが、日程の連絡がなく、また、連絡もつかない状況であった。佐保地域では4月に説明会を実施しており、鼓阪地域においても早期に説明会を実施する必要があることから、開催することを決定した。（教育政策課） 放課後子ども教室の開催日が決定した時期と、この説明会の開催日が決定した時期がほぼ同じであり、調整することが難しかった。（校長）
14	令和7年奈良市議会3月定例会において可決された、工事請負契約の締結案に対する附帯決議について、どういうことなのか分かりやすく説明してほしい。	附帯決議は、議案を議決するに当たって議会が希望と意見を付するものであり、法的効果ではなく、政治的に尊重されるものである。附帯決議がどういう意味を持つのか、なぜこのような内容なのかについては、議会に説明責任があり、我々としては、市としての取組について、市としての責任でお答えできる範囲についてお答えさせていただく。
15	鼓阪小学校の子どもが出したアンケートを読んでどう思ったか、市長に伺う。	アンケートは子どもたちが置かれている状況に対して真剣に考えた、純粋な気持ちが表示されていると思う。しかし、子どもの権利を守って子どもの声をしっかり聞くことは大前提であるが、子どもが得られる情報や経験には限りがあるため、大人が子どもへの機会提供をして、いろいろな経験をした上で子どもがどう感じるのかを考えていくことが必要である。
16	鼓阪小学校は設備面で修繕が必要な箇所が何箇所もあるが、統合再編の予定があるから対応してもらえないと聞いている。統合再編までまだ2年続くため、そのような面で子どもに不自由させることのないようしてほしい。	大規模な改修はできないかもしれないが、毎日の子どもたちの生活があるため、緊急性のあるものについてはしっかり対応していきたい。

	意見
17	誰のための統合再編なのかという部分が抜けていると思う。そこが抜けたままで進むのは誰も納得しないし、合意形成を図っているというのがその姿勢も感じられない。本当に合意形成を図るつもりがあるなら、誰のためにどうすればよいのか、もっと考えようがあると思う。
18	何故鼓阪小学校が廃校になるのか、皆納得していない。
19	少人数教育には少人数教育の良さがあり、地域とのつながりが自然と身に付くのは小学生の時期である。地域の良さを感じられる地域の作り方を子どもの教育の中に入れていく必要があり、それは大人数、少人数以前の問題だと思う。
20	統合再編について説得力のある正当な理由がなく、当事者はもとより、地域住民の合意が得られていない。3月議会で市長問責決議が出されたことを真摯に受け止め、佐保小学校の新築工事と統合再編とは切り離し、一度立ち止まって考えるべきである。より良い教育環境、子どもたちのためという言葉振りかざしているが、中身に説得力が全くない。